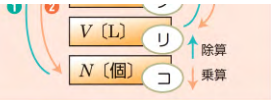



番号	訂正箇所		原文	訂正文																														
	ページ	行																																
1	84	6-15 および 側注	<p>タースは数量の単位で、1タースは12倍を表す。</p> <p>る粒子の数を直接数えることは不可能である。そのため、質量数12の炭素原子¹²C 12 g中に含まれるC原子の数(6.02×10²³個)を基準として、次のような粒子の数の単位を定める。</p> <p>◆物質量(単位記号 mol)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6.02×10²³個の粒子の集団を1 mol(モル)という。 ・molを単位として表した粒子の量を物質量という。 <p>▶アボガドロ定数 1 molあたりの粒子の数をアボガドロ定数^①といい、N_Aを用いて表す。</p> <p>アボガドロ定数 N_A = 6.02×10²³/mol</p> <p>物質量は、アボガドロ定数を用いると、次のように表される。</p> <p>◆物質量と粒子の数の関係</p> $\text{物質量 [mol]} = \frac{\text{粒子の数}}{6.02 \times 10^{23} / \text{mol}}$ <table border="1"> <thead> <tr> <th>物質量</th> <th>0.5 mol</th> <th>1 mol</th> <th>2 mol</th> <th>3 mol</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(6.02×10²³) × 0.5 個</td> <td>(6.02×10²³) 個</td> <td>(6.02×10²³) × 2 個</td> <td>(6.02×10²³) × 3 個</td> </tr> <tr> <td>粒子の数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>① アボガドロ定数は測定値であり、最新の詳しい値は6.022140857×10²³/molである。なお、本書では、計算をしやすくするため、おもに6.0×10²³/molを用いる。</p> <p>◆単位 「/mol」は「毎モル」と読む。英語で「per (パー)モル」と読むことも多い。</p> <p>② 「物質量と mol」の関係は、「長さと m」、「質量と kg」の関係と同じである。</p>	物質量	0.5 mol	1 mol	2 mol	3 mol		(6.02×10 ²³) × 0.5 個	(6.02×10 ²³) 個	(6.02×10 ²³) × 2 個	(6.02×10 ²³) × 3 個	粒子の数					<p>① 物質量の定義について ▶p.199</p> <p>◆ヒント 物質量を用いるときは、原子・分子・イオンなどの粒子の種類を示さなければならぬ。ただし、「水 1 mol」といえば、水分子 1 mol のことであり、このように、粒子の種類が明らかなきときは省略されることがある。</p> <p>◆物質量(単位記号 mol)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6.02×10²³個の粒子の集団を1 mol(モル)という。 ・molを単位として表した粒子の量を物質量という。 <p>▶アボガドロ定数 1 molあたりの粒子の数をアボガドロ定数^①といい、N_Aを用いて表す。</p> <p>アボガドロ定数 N_A = 6.02×10²³/mol</p> <p>物質量は、アボガドロ定数を用いると、次のように表される。</p> <p>◆物質量と粒子の数の関係</p> $\text{物質量 [mol]} = \frac{\text{粒子の数}}{6.02 \times 10^{23} / \text{mol}}$ <table border="1"> <thead> <tr> <th>物質量</th> <th>0.5 mol</th> <th>1 mol</th> <th>2 mol</th> <th>3 mol</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(6.02×10²³) × 0.5 個</td> <td>(6.02×10²³) 個</td> <td>(6.02×10²³) × 2 個</td> <td>(6.02×10²³) × 3 個</td> </tr> <tr> <td>粒子の数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>② 「物質量と mol」の関係は、「長さと m」、「質量と kg」の関係と同じである。</p>	物質量	0.5 mol	1 mol	2 mol	3 mol		(6.02×10 ²³) × 0.5 個	(6.02×10 ²³) 個	(6.02×10 ²³) × 2 個	(6.02×10 ²³) × 3 個	粒子の数				
物質量	0.5 mol	1 mol	2 mol	3 mol																														
	(6.02×10 ²³) × 0.5 個	(6.02×10 ²³) 個	(6.02×10 ²³) × 2 個	(6.02×10 ²³) × 3 個																														
粒子の数																																		
物質量	0.5 mol	1 mol	2 mol	3 mol																														
	(6.02×10 ²³) × 0.5 個	(6.02×10 ²³) 個	(6.02×10 ²³) × 2 個	(6.02×10 ²³) × 3 個																														
粒子の数																																		

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
1	199	下部	<p>[基準量] 質量：物質のモル質量 気体の体積：22.4 L 粒子の数：6.0×10^{23} 個</p> 	
				<p>参考 物質量の新しい定義 2019年5月20日に物質量の定義が改訂された。従来は、^{12}C 12 g 中に含まれるC原子の数を基準値としていたが、改訂後は、$6.02214076 \times 10^{23}$ を決まった値とし、この粒子数の集団を 1 mol とすることとなった。新定義では、^{12}C 1 mol の質量は、厳密に 12 g にはならず 11.9999999958 g となるが、計算上で大きな影響はない。</p>
2	153	12-14	<p>いように、両極を分離する必要がある。<u>分離に陽イオン交換膜(陽イオンのみを通す膜)を使用した製造法を陽イオン交換膜法という。</u></p>	<p>いように、両極を分離する必要がある<u>あり</u>、ここでは陽イオン交換膜(陽イオンのみを通す膜)を使用している。<u>分離にイオン交換膜を使用した製造法をイオン交換膜法という。</u></p>
3	172	1	<p><u>現在の原子量の基準は、質量数 12 の炭素原子の相対質量 12 として定められている。もし、これを 6 として、^{12}C の 6 g に含まれる炭素原子の数と等し</u></p>	<p><u>現在の原子量は、質量数 12 の炭素原子の質量を 12 とした相対質量から定められている。</u></p>
4	後見返し裏	右下		<p>117</p>